

1997年度日本気象学会賞・藤原賞の各受賞者決まる

日本気象学会賞受賞者：佐藤信夫

(気象庁数値予報課)

業績：大気大循環モデル及び全球数値予報モデルへの生物圏モデルの導入ならびに大気大循環における陸面過程及び大気・陸面相互作用の研究

選定理由：従来大気大循環モデル(GCM)に於ける陸面水文過程の重要性は確認されていたにもかかわらず非常に簡単なパラメタリゼーションが使用されていた。佐藤会員はP. J. Sellersの開発したSimple Biosphere Model (SiB Model)と呼ばれる、植物圏過程に伴うエネルギーフラックスや蒸発散過程を組み込んだより現実的なパラメタリゼーションをGCMに初めて組み込んだ。このGCMにより全球的な気候に与える陸面過程の効果を評価し、従来のGCMに比し、地表面熱収支、水収支、大気境界層など、はるかに現実的な結果が得られることを示した。この研究以後GCMにはSiBが広く用いられる様になった。

佐藤会員は気象庁の全球数値予報モデル(GSM)にもSiBを導入した。このGSMの予報解析サイクルから得られる高精度の客観解析データは最も基本的なデータとして多くの解析的研究に活用されている。

このJMA GSMの低解像度版(T42L21)のJMA GCMはAMIP (Atmospheric Model Intercomparison Project)の大気モデル比較実験プロジェクトに参加し、世界29機関のモデルの内Max-Planck-Institutモデルにつぐ高い予測精度を示した。佐藤会員を含む研究グループはJMA GCMおよびJMA GSMを使用して大気大循環の長期変動などの研究を進めている。さらにWCRPの数値モデルグループのメンバーとしても国際的に活躍している。特に、GEWEX 全球土壌水分評価プロジェクト(GSWP)のリーダーとして、気候システムの中でも、その重要性にもかかわらず最も情報の少ない土壌水分量を全球的に評価する研究を進めており、その成果は高く評価されている。

以上の理由により、日本気象学会は佐藤会員に本年度日本気象学会賞を贈呈するものである。

日本気象学会藤原賞受賞者：関口理郎

(成蹊大学)

業績：わが国におけるオゾン観測体制の確立、オゾ

ン層変動機構の解明等の成層圏科学の発展への貢献

選定理由：今日の天気予報業務の発展には高層気象観測技術の発展とその観測網の展開が基礎をなしている。関口理郎会員は日本における高層気象観測の推進に尽力し、特にラジオゾンデの日射補正についての検討、その精度向上により天気予報業務の発展に寄与した。高層気象観測業務に関連して気象庁におけるドブソン分光観測網の展開、オゾンゾンデ観測の実施を責任者として推進し、国際比較等に参加するなど全球オゾン観測網の我が国における発展・維持に指導的な貢献を行ってきた。その結果、我が国により南極昭和基地を含む5ヵ所のオゾン観測網が確立された。この間、永らく国際オゾン委員会(IOC/IAMAS)委員として活躍した。このほか、成層圏の観測については、気象庁にあって露点ゾンデ・輻射ゾンデ等の開発とその定常観測を推進した。また上部成層圏のロケット観測の推進にも従事し、鹿児島県内之浦町内之浦における気象ロケットの研究観測とアメリカにおける日米の気象ロケット比較観測に参加し、現在の岩手県三陸町綾里における気象ロケット観測の基礎を築くことに尽力した。

オクラホマ大学に研究員として滞在中(1961~63)には、成層圏のエネルギー解析を行い、突然昇温と極渦の安定性を論じた論文を発表し、その後、日本上空を中心とした中緯度の下部成層圏オゾン層変動が光化学要因と力学輸送要因により支配されていることを解析し、中緯度におけるオゾン全量変動のメカニズムを明らかにした。

今日地球環境問題として大きく注目を集めている成層圏オゾン破壊の事実を明確にしたのは、1956年の国際地球観測年(IGY)を契機として世界気象機関や国際オゾン委員会を中心に継続されてきた全球オゾン観測網によるところが大きい。関口会員は、南極観測や中層大気計画(MAP)、WCRPの成層圏過程と気候影響(SPARC)など多くの国際共同事業においても指導的役割を果たした。特にMAP計画ではオゾンの観測を南極で実施することを推進し、これは昭和基地でのオゾンホールの世界初の検出(発表)に結びついた。南極オゾンホール発見後の1986年には昭和基地上空の100 hPa気温とオゾン全量との相関関係を解析

し、世界に先駆けてオゾンホール解明のための研究を行った。

現在、北半球高緯度オゾン層変動が大きな問題になっているが、1989年以来、日本・カナダ科学技術協力協定のもと科学技術庁の行っている北極観測計画推

進の最高責任者として尽力するなど、一環して我が国のオゾン層観測・研究の発展に寄与した功績は大きい。

以上の理由により、日本気象学会は関口理郎会員に本年度藤原賞を贈呈するものである。



教授公募

下記の人事について公募致します。

(九州大学応用力学研究所基礎力学)

記

1. 公募人員
教授1名
2. 所属部門(分野)
基礎力学部門(地球流体力学分野)
3. 専門分野, 仕事の内容
地球流体力学, 回転, 成層をもつ流体系に固有の流れの性質とその機構に関する研究及び教育。
4. 着任時期
採用決定後なるべく早い時期(改組による新設分野のため平成9年度の予算成立後)。
5. 応募資格
博士の学位を有すること。
6. 提出書類
①履歴書(写真貼付, Fax, e-mail のある場合は記入)

- ②業績書
- ③主要論文別刷5編(コピー可)
- ④これまでの研究概要と今後の抱負(それぞれ2,000字程度)
- ⑤本人について意見を伺える方2名(氏名と連絡先)
- ⑥選考状況により別途書類の提出を求めることがある。
7. 公募締切
1997年4月30日(水)
8. 書類送付先, 問い合わせ先
〒816 福岡県春日市春日公園6-1
九州大学応用力学研究所 及川正行
Tel 092-583-7681
Fax 092-575-1159
e-mail : oikawa@riam.kyushu-u.ac.jp
封筒に「基礎力学教授応募書類」と朱書し, 書留または簡易書留で送付のこと。応募書類は返却しない。